



# 教育原理

---

第7テーマ  
西洋教育史概要

教育思想家とその事績

# 0 本テーマの構成



## 0 本テーマの導入

—教育史を学ぶ意味—

### I 西洋における教育思想家とその事績

1 コメニウス

2 ルソー、ペスタロッチ、フレーベル

(補) ・古代ギリシャにおける教育思想

・近代以前の幼児教育思想の系譜

なかなか「きつい」テーマではある。



## ○ 本テーマの導入

— 教育史を学ぶ意味 —

### I 西洋における教育思想家とその事績

1 コメニウス

2 ルソー、~~ペスタロッチ~~、~~フレーベル~~

~~(補) ・古代ギリシャにおける教育思想~~

~~・近代以前の幼児教育思想の系譜~~

# 0 本テーマの内容

## 0 本テーマへの課題提起

→教育の歴史を学ぶ意味は？

## I 幼児教育思想の原点はどのようなものか

### 1 コメニウス

「近代教育学の父」

### 2 ルソー

「子どもの発見者」

## 0 本テーマの要点

- 1 コメニウスは、普遍的な教育制度を構想し、それに係る理論を集成した。（『大教授学』）  
世界最初の図入り教科書『世界図絵』を作成した。
- 2 ルソーらが、「子ども」を「発見」し、近代的な教育思想の基礎を築いた。（『エミール』）  
ルソーの思想は、ペスタロッチやフレーベルに継承され、幼児教育の思想・方法が発展した。

## 0 本テーマの要点

- 1 コメニウスは、普遍的な教育制度を構想し、それに係る理論を集成した。（『大教授学』）  
世界最初の図入り教科書『世界図絵』を作成した。
- 2 ルソーらが、「子ども」を「発見」し、近代的な教育思想の基礎を築いた。（『エミール』）  
ルソーの思想は、ペスタロッチやフレーベルに継承され、幼児教育の思想・方法が発展した。

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

### ①「教育」という行為の定義は？

- ・「教育」は、広く捉えれば、学習者の( )  
を( )することである。

↑その前提として.....

- ・ヒトは、自ら( )する能力を有している。

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

### ①「教育」という行為の定義は？

- ・「教育」は、広く捉えれば、学習者の(成長発達)を(支援)することである。

↑その前提として.....

- ・ヒトは、自ら(成長発達)する能力を有している。

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

②教育をめぐる二つの大きな考え方は？

①.....( )する側＝

多くの場合は(おとな／子ども)を重視する教育観

②.....( )する側＝

多くの場合は(おとな／子ども)を重視する教育観

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

②教育をめぐる二つの大きな考え方は？

①.....(教育)する側＝

多くの場合は(おとな／子ども)を重視する教育観

②.....(学習)する側＝

多くの場合は(おとな／子ども)を重視する教育観

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

③ ②ー①・②それぞれの主な目的は？

① ‘……特定の( )の組織的な  
( ( )で( )な)伝達・注入

② ‘……( )する側(多くの場合はおとな／  
子ども)の( ・ ・ )などの涵養

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

③ ②ー①・②それぞれの主な目的は？

① ‘……特定の(教育内容)の組織的な  
(効果的)で(迅速)な伝達・注入

② ‘……(学習)する側(多くの場合はおとな/  
子ども)の(個性・興味・関心)などの涵養

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

※ ③ー① ‘における「特定の(教育内容)」の  
具体例は？

・社会の( ) (道徳、価値観、規範など)・  
( ) (作法など)、文化、伝統、歴史など

【ヒント】学習者の個性・興味・関心の尊重より、  
「その内容をまず教え込む」べきこととは？

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

※ ③ー① ‘における「特定の(教育内容)」の  
具体例は？

- ・社会の(ルール)(道徳、価値観、規範など)・  
(マナー)(作法など)、文化、伝統、歴史など
- ・文字など

【ヒント】学習者の個性・興味・関心の尊重より、  
「その内容をまず教え込む」べきこととは？

# 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....

「教」.....

「育」.....

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....「人の成長発達を助けること」  
「教」.....「ルール・マナーを教え込むこと」  
「育」.....「個性・興味・関心などを育むこと」

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....「人の成長発達を助けること」

いつ、どこで、誰によって行われる？

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....「人の成長発達を助けること」

こうした教育が行われる時間・空間を一言で表すと？

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....「人の成長発達を助けること」

日常生活

# 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....「人の成長発達を助けること」

日常生活全般で教育が行われる。

人類の歴史において、  
「日常生活」はいつ始まったか？



## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....「人の成長発達を助けること」

「人の成長発達を助ける」という意味の教育は、人類が社会を作り始めた時、すでに存在していた。

(人類が社会生活を始めた時、そこに日常生活があったから)

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

「教」.....「ルール・マナーを教え込むこと」

いつ始まったか？

## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

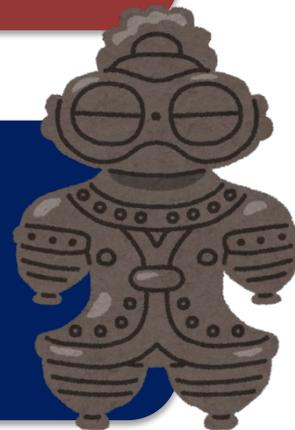
④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

「教」.....「ルール・マナーを教え込むこと」

人類が、ルール・マナーの迅速かつ  
効率的な伝達を必要とした時に始まった。



より具体的には？



## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

「教」.....「ルール・マナーを教え込むこと」

「ルール・マナーを教え込む」という意味の教育は、人類が社会を作り始めた時、やはりすでに存在していた。

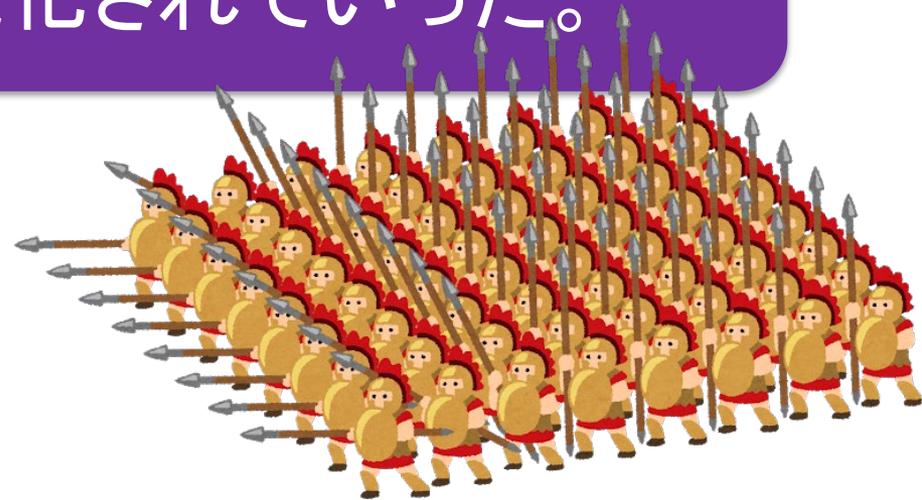
(人類が社会生活を始めた時、そこにルールやマナーは存在し、その伝達が求められたはずであるから)

# 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

「教」.....「ルール・マナーを教え込むこと」

そして、生活集団が大きくなるにつれ、  
こうした教育は組織化されていった。



## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

「教」……「ルール・マナーを教え込むこと」

高度化・大型化した社会の維持には、より詳細かつ厳格なルールやマナーの確立が必要である。

ルールやマナーを次世代に速く効率よく  
「教え込む」ために教育が組織化された。

## 0 本テーマの導入

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

①の教育.....「人の成長発達を助けること」  
→広い意味での「教育」のはじまり

「教」.....「ルール・マナーを教え込むこと」  
→「組織的な教育」のはじまりとなっていく

「育」.....「個性・興味・関心などを育むこと」

↑ いつ？

## 0 本テーマの導入

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

「育」……「個性・興味・関心などを育むこと」

いつ始まったか？

## 0 本テーマの導入

④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？  
(本テーマ)

「育」……「個性・興味・関心などを育むこと」

きわめて単純化すると……

18世紀！



## 0 本テーマの導入(第3,4テーマの要点の確認)

### ④ ①の教育、「二つの教育観」の起源は？ (本テーマ)

「育」.....「個性・興味・関心などを育むこと」

- ・「子ども」と「おとな」は異なる存在である。
- ・子どもは自ら成長発達する。
- ・人の成長発達には段階がある。
- ・子どもの関心や自発性が最優先される。
- ・子どもは、適切な環境において、  
発達段階に応じた教育を受ける。



## 0 本テーマの導入

18世紀のルソー以後に体系化されていく

「育」……「個性・興味・関心などを育むこと」

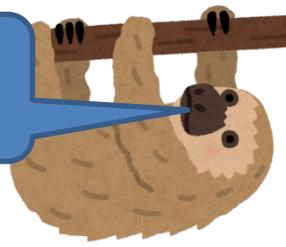
・子どもの特性を尊重し、  
その自然な成長発達を支援すること

=教育

(子どもへの教育)



## ↓ エラスムス、コメニウスなど



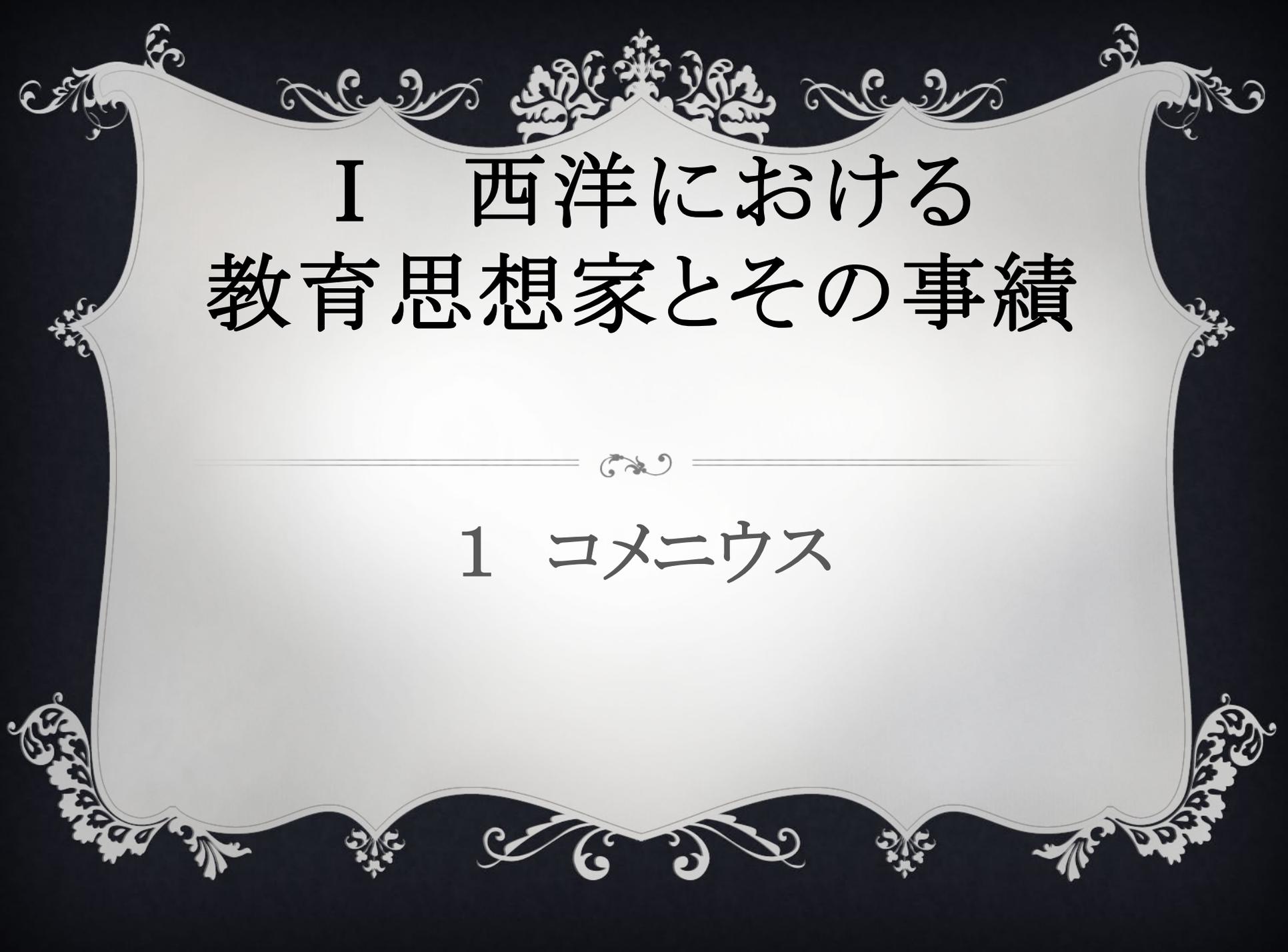
### 【17世紀まで】

- ・人間には発達段階があること。
- ・発達段階にふさわしい教育内容があること。
- ・すべての人間が同一の教育を受けること。
  - ・同一の学校、同一の教科書を確保すること。

### 【18世紀】

- ・子どもは、おとなと違う存在であること。
- ・子どもの自然な成長発達への支援（＝教育）が必要であること。
- ・子どもの成長発達には段階があること。





# I 西洋における 教育思想家とその事績

---

## 1 コメニウス

# 1 コメニウスの教育思想とその事績

Johannes Amos Comenius  
(1592-1670)



# 1 コメニウスの教育思想とその事績

## (1) その生涯

- ・1592年生 - 1670年没
- ・モラヴィア生まれの宗教改革者・教育思想家。
- ・コメニウスは筆名である。
- ・三十年戦争(1618年～)で故郷を追われる。
- ・亡命先のポーランドで主著『Didactica Magna』を著す。
- ・宗教戦争を避け、ヨーロッパを歴訪する。
- ・1650年、ハンガリーで学校教育に携わる。
- ・世界最初の絵入り教科書『Janina』を出版する。
- ・1670年、アムステルダムで客死する。

# コメニウスについてのキーワード

- ・「近代教育学の父(祖)」、「教授学の祖」  
→教育学を体系的にまとめ、  
現代に至る教育学の礎を築いた。

※学校制度についても実際の教授方法についても  
現代の教育へきわめて大きな影響を与えている。



# コメニウスについてのキーワード

- ・主著『**大教授学**』
  - ・コメニウスの教授理論の集成
  
- ・世界最初の絵入り教科書『**世界図絵**』
  - ・コメニウスの教育実践の集成



# コメニウスについてのキーワード

- ・近現代に通ずる学校構想

※近現代の学校制度は、コメニウスの思想の影響を強く受けている。

- ・同一種類の学校制度

**教育の機会均等**

(すべての人に教育の機会が平等に開かれる)



# コメニウスについてのキーワード

## ・近現代に通ずる学校構想

※近現代の学校制度は、コメニウスの思想の影響を強く受けている。

☆同一年齢の子どもが同一学年に所属する。  
同じ学年の子どもは、同一の言語で、  
同一の内容を学ぶ。

現代日本の  
小中学校は？

☆一斉教授、男女共学



# コメニウスについてのキーワード

## ・生涯学習思想

※人間の一生を、「生涯を通じた学習の過程」ととらえる考え方

- ・学習は学校だけで行うもの？
- ・学校を終えたら(就職したら)、学習は終わり？
- ・20代で就職して、人生は残り何年？
- ・退職して、子育てを終えて、人生は残り何年？
- ・その何十年間、人は学ぶ活動をしらないのか？

# コメニウスについてのキーワード

## ・生涯学習思想

※人間の一生を、「生涯を通じた学習の過程」ととらえる考え方

・乳幼児期の学習

家庭

・少年期の学習

学校

・若年期の学習

学校、職業、社会

・青年期の学習

結婚、出産、子育て

・壮年期の学習

職業、家庭

・老年期の学習

死



あえて下線は引かないけれども！



☆つまり、コメニウスは、以下のような  
近現代における教育制度を構想した人物である。

- 近代学校制度

- 教育の機会均等（万人に対する等しい教育）
- 一斉教授（集団教育）、男女共学
- 教授方法・カリキュラム・教授用語の統一
- 学年制

- 生涯学習思想（特に乳幼児期、壮年・老年期）



# コメニウスについてのキーワード

- 汎知学

- 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

(後述)

※コメニウスの教育思想の根本



# コメニウス その生涯

※コメニウスは、30年戦争や宗教対立で荒廃するヨーロッパにおいて、その生涯の大半を過ごした。

※モラヴィアの人口 300万人→90万人

☆コメニウスの教育思想の根本は、  
青少年に対する**教育**を通じて、  
「人類を破滅から救うこと」である。

教育は  
世界を救う

## (2) 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

☆主著『 』



## (2) 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

☆主著『大教授学』

【正式書名】

『あらゆる人に、あらゆる事柄を教授する、  
普遍的な技法を提示する大教授学』

すべての人間に、すべての事柄を教えるための、  
すべてに共通する技術と方法、それが大教授学

当時のヨーロッパの教育は？

# 中世ヨーロッパにおける身分別学校のイメージ

身分により、属する  
学校の種類が異なる。

大学

文法学校

予備学校

貴族・聖職者

職業 補修

高等小学校

小学校

民衆など

騎士教育

騎士

学校教育なし？

農奴など

## (2) 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

☆主著『大教授学』

【別書名】



## (2) 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

☆主著『**大教授学**』(別書名)

『いかなるキリスト教王国のであれ、その集落すなわち都市および村落のすべてにわたり、男女両性の全青少年が、ひとりも無視されることなく、学問を教えられ、徳行を磨かれ、敬神の心を養われ、かくして青年期までの年月の間に、現世と来世との生命に属するあらゆる事柄を僅かな労力で愉快に着実に教わることのできる学校を創設する、的確な、熟慮された方法』

## (2) 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

☆主著『**大教授学**』(別書名)

『いかなるキリスト教王国のであれ、その集落すなわち都市および村落のすべてにわたり、男女両性の全青少年が、ひとりも無視されることなく、**学問を教えられ、徳行を磨かれ、敬神の心を養われ、かくして青年期までの年月の間に、現世と来世との生命に属するあらゆる事柄を僅かな労力で愉快に着実に教わることのできる学校を創設する、的確な、熟慮された方法**』

端的には……

## (2) 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

- ※教育の対象.....**あらゆる人**(すべての人間)
- ※人間の使命.....学識・道徳・敬神
- ※教育の時期.....発達段階に応じた教育
- ※教育内容.....「**あらゆること**」
- ※教育方法.....「僅かな労力で愉快に着実に」
- ※教育の時空.....「学校」



## (2) 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

☆あらゆる事柄



☆「汎知学」

- ・すべてのものを知りうるという百科全書的思想
- ・あらゆる知識が有機的に関連しているという思想

コメニウスによる  
「あらゆる事柄」

①現実の世界そのもの、②人間自身、③聖書

# 『大教授学』にみるコメニウスの教育思想

- 「あらゆる人」が教育の対象である。  
→あらゆる人が同一種の学校に所属する。
- 「あらゆる事柄」が教育の内容である。  
→あらゆる人が同一の内容（あらゆる事柄）を学ぶ。
- 学識、道徳、敬神の趣旨をはぐくむことが教育の目的である。
- 教育には、人間の成長発達に応じた段階がある。

# 『大教授学』にみるコメニウスの教育思想

- 「あらゆる人」が教育の対象である。  
→あらゆる人が同一種の学校に所属する。
- 「あらゆる事柄」が教育の内容である。  
→あらゆる人が同一の内容（あらゆる事柄）を学ぶ。
- 学識、道徳、敬神の趣旨をはぐくむことが教育の目的である。
- 教育には、人間の成長発達に応じた段階がある。

### (3) 生涯学習思想と母親学校

- ・『大教授学』では、25年間の発達段階を構想
- ・「母国語学校」.....

あらゆる者が所属する同一の学校種で  
同一の内容を、同一言語で学ぶ。



## (3) 生涯学習思想と母親学校

- ・『大教授学』では、25年間の発達段階を構想
- ・「**母親学校**」(「**母親の膝の上**」).....  
あらゆる者が学ぶ初期段階の学校である。

### 家庭教育

※『母親学校の指針』

- 1.敬虔な心  
神の探求・認知、神との一体化
- 2.作法と品性  
身だしなみ、作法、気配りなど
- 3.実践的知識  
知る、行う、話す



### (3) 生涯学習思想と母親学校

- 『大教授学』(1628-1632年執筆)
  - 0～24歳の発達段階を構想
- 『汎教育』(1650-1655年執筆)
  - 誕生前から死に至る生涯の段階と教育を構想



## Ⅱ－3 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」

### ☆『汎教育』における発達段階

- ・「誕生前の学校」
- ・「幼児期の学校」(0～6歳)
- ・「少年期の学校」(7～12歳)
- ・「若年期の学校」(13～18歳)
- ・「青年期の学校」(19～24歳)
- ・「壮年期の学校」(24歳～)
- ・「老年期の学校」
- ・「死の学校」

☆『汎教育』では、「あらゆる人」は障害者も含む。

### (3) 生涯学習思想と母親学校

- 『汎教育』では、25年間の発達段階 +  $\alpha$  を構想
- 初期段階の学校として、「**母親学校**」を構想  
家庭教育
- 最初期の学校として、「**誕生前の学校**」を構想  
→ 両親に対する教育
- 壮年期の教育
- 老年期の教育
- 死の学校



## (4) 具体の教授方法与教材

☆世界最初の図入り教科書『』



## (4) 具体の教授方法と教材

☆世界最初の図入り教科書『世界図絵』



## (4) 具体の教授方法と教材

☆世界最初の図入り教科書『世界図絵』

### ☆構成

入門、1.神、2.世界、3.天空、...自然の動植物、  
人体の仕組み、様々な職業、社会的な生活、学校  
関係、倫理や勤勉、.....149.神の摂理、  
150.最後の審判



## (4) 具体の教授方法と教材

☆世界最初の図入り教科書『世界図絵』

☆構成

入門、1.神、2.世界、3.天空、...自然の動植物、  
人体の仕組み、様々な職業、社会的な生活、学校  
関係、倫理や勤勉、.....149.神の摂理、  
150.最後の審判  
→「あらゆる事柄」



## (4) 具体の教授方法と教材

☆世界最初の図入り教科書『世界図絵』

☆構成

入門、1.神、2.世界、3.天空、...自然の動植物、  
人体の仕組み、様々な職業、社会的な生活、学校  
関係、倫理や勤勉、.....149.神の摂理、  
150.最後の審判

→「あらゆる事柄」

①現実の世界そのもの

②人間自身、③聖書



## (4) 具体の教授方法と教材

☆世界最初の図入り教科書『世界図絵』

☆構成

入門、1.神、2.世界、3.天空、...自然の動植物、  
人体の仕組み、様々な職業、社会的な生活、学校  
関係、倫理や勤勉、.....149.神の摂理、  
150.最後の審判

→「あらゆる事柄」

①現実の世界そのもの

②人間自身、③聖書



## (4) 具体の教授方法と教材

☆世界最初の図入り教科書『世界図絵』

### ☆構成

入門、1.神、2.世界、3.天空、...自然の動植物、  
人体の仕組み、様々な職業、社会的な生活、学校  
関係、倫理や勤勉、.....149.神の摂理、  
150.最後の審判

「幼いころに初めて読んだ、宝物のような絵本である」

(ゲーテ)

# コメニウスのキーワード

## 【生涯】

- ・1592 - 1670年
- ・モラヴィア生まれの宗教改革者・教育思想家。
- ・コメニウスは筆名である。
- ・三十年戦争(1618年～)で故郷を追われる。
- ・亡命先のポーランドで主著『Didactica Magna』を著す。
- ・宗教戦争を避け、ヨーロッパを歴訪する。
- ・1650年、ハンガリーで学校教育に携わる。
- ・世界最初の絵入り教科書『Januares Arithmetice』を出版する。
- ・1670年、アムステルダムで客死する。

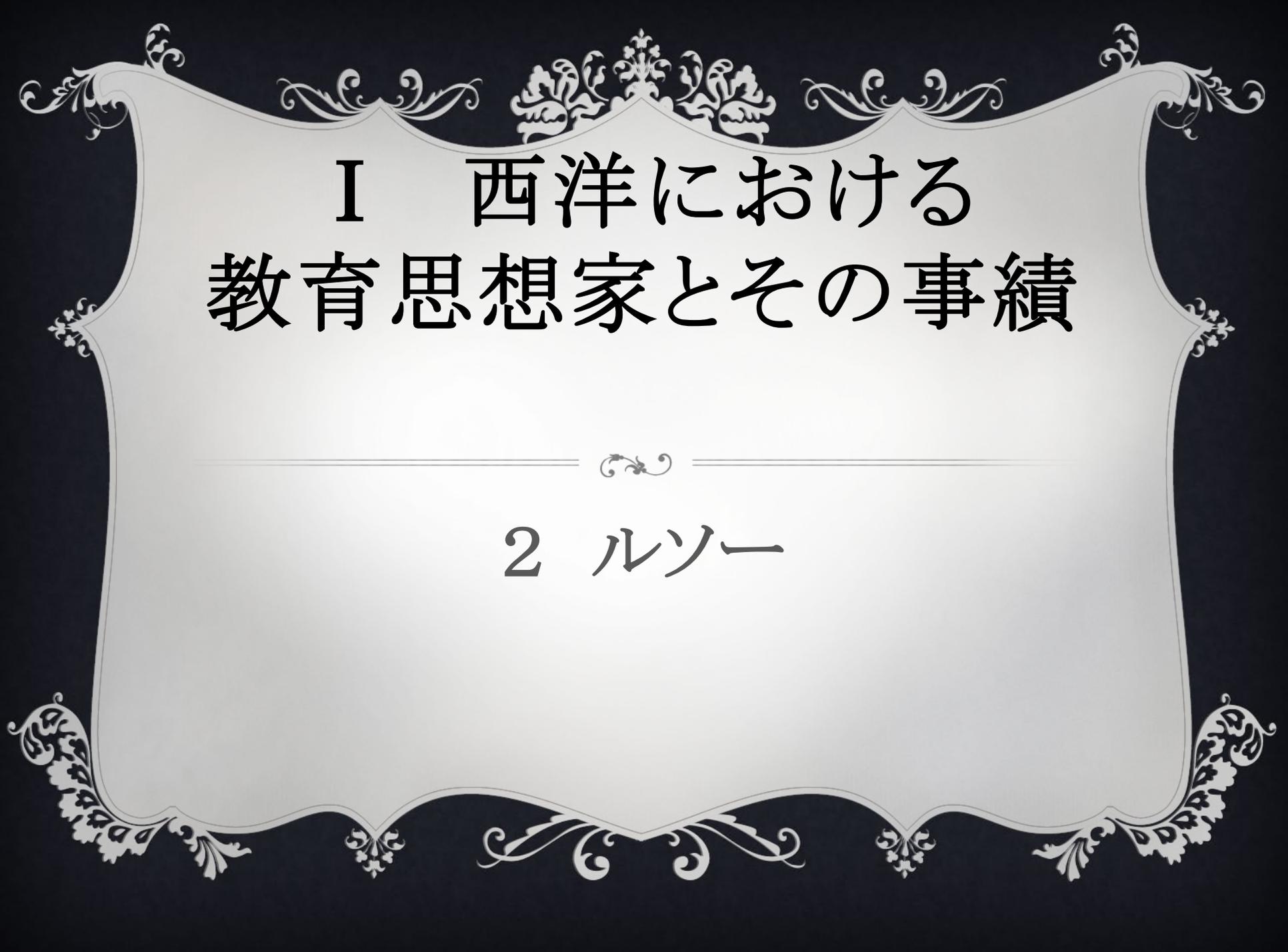
# コメニウスのキーワード

## 【生涯】

- ・1592 - 1670年
- ・モラヴィア生まれの宗教改革者・教育思想家。
- ・コメニウスは筆名である。
- ・三十年戦争(1618年～)で故郷を追われる。
- ・亡命先のポーランドで主著『**大教授学**』を著す。
- ・宗教戦争を避け、ヨーロッパを歴訪する。
- ・1650年、ハンガリーで学校教育に携わる。
- ・世界最初の絵入り教科書『**世界図絵**』を出版する。
- ・1670年、アムステルダムで客死する。

## Ⅱ - 1 コメニウスについてのキーワード

- 「近代教育(学)の祖」、「教授学の祖」
- 主著『大教授学』
- 世界初の絵入り教科書『世界図絵』
- 近現代に通ずる学校構想  
(単線型学校体系(教育の機会均等)、同一年齢・学年・内容・言語の学校組織など)
- 生涯学習思想(親の教育から死に至るまで)  
「母親学校」(「母親の膝の上」)
- 汎知学(万人に共通必須の普遍的知識の体系化)
- 「あらゆる人に、あらゆる事柄を」



# I 西洋における 教育思想家とその事績

---

## 2 ルソー

## 2 ルソーの教育思想とその事績

Jean-Jacques Rousseau  
(1712-1778)



## 2 ルソーの教育思想とその事績

### (1) その生涯

- 1712年生 - 1778年没
- 主にフランスで活躍した(政治)哲学者、作曲家
- 様々な領域の近代思想に多大な影響を与えた。
  
- 『学問芸術論』.....「自然に帰れ」
- 『社会契約論』.....人民主権、フランス革命へ影響
- 『エミール』.....近代教育思想の原典の一つ
- 『新エロイーズ』.....ロマン主義の源流



## 2 ルソーの教育思想とその事績

### (1) その生涯

- 1712年生 - 1778年没
- 主にフランスで活躍した(政治)哲学者、作曲家
- 様々な領域の近代思想に多大な影響を与えた。
  
- 『学問芸術論』.....「自然に帰れ」
- 『社会契約論』.....人民主権、フランス革命へ影響
- 『エミール』.....近代教育思想の原典の一つ
- 『新エロイーズ』.....ロマン主義の源流



# ルソーの教育思想についてのキーワード

## 『エミール』

- ・「**子どもの発見者**」
- ・”**合自然の教育**”
- ・**感覚・経験の重視**
- ・「**消極教育**」
- ・三種類の教育……**自然の教育、人間の教育、  
事物の教育**
- ・**第二の誕生**  
「私たちは二回この世に生まれる。  
一回目は存在するために、二回目は生きるために」

## (2) ルソーの原点

『学問芸術論』(1750)

- ・ルソーのデビュー作
- ・学問芸術の発達と徳の衰退の関係や、学問芸術の起原と結果を論ずる。

- ・学問より徳の重視
- ・奢侈と不平等への嫌悪
- ・原始(自然)状態の賛美 など

ルソーの思想の原点

『エミール』にも通ずる



## (2) ルソーの原点

『学問芸術論』(1750)

- ・ルソーのデビュー作
- ・学問芸術の発達と徳の衰退の関係や、学問芸術の起原と結果を論ずる。

- ・学問より徳の重視
- ・奢侈と不平等への嫌悪
- ・原始(自然)状態の賛美 など

ルソーの思想の原点

『エミール』にも通ずる

「自然に帰れ」



## (2) ルソーの原点

### 『学問芸術論』(1750)

- ・人間社会はもともと平等だった。
  - ・社会が不平等になり、裕福な者が学問芸術を発展させた。
- ⇒学問芸術は、不平等な社会の産物である。

- ・学問より徳の重視
- ・奢侈と不平等への嫌悪
- ・原始(自然)状態の賛美 など

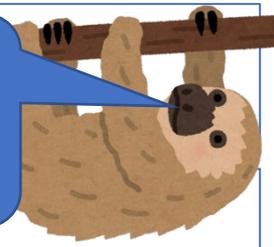
ルソーの思想の原点

『エミール』にも通ずる

「自然に帰れ」



「社会が不平等になったために学問が生まれたのだ！」(byルソー)



・「スコレー」という言葉が生まれた古代のギリシャでは、多数の学者などが生まれたが…



ソクラテス



プラトン



アリストテレス

基本的に、「彼らはみんな有産階層」であった。平民や奴隷は学問をしている時間はなかった。

## (2) ルソーの原点



### 『学問芸術論』(1750)

- ・人間社会はもともと平等だった。
  - ・社会が不平等になり、裕福な者が学問芸術を発展させた。
- ⇒学問芸術は、不平等な社会の産物である。

- ・学問より徳の重視
- ・奢侈と不平等への嫌悪
- ・原始(自然)状態の賛美 など

ルソーの思想の原点

『エミール』にも通ずる

「自然に帰れ」



## (2) ルソーの原点



### 『学問芸術論』(1750)

- ・人間社会はもともと平等だった。
  - ・社会が不平等になり、裕福な者が学問芸術を発展させた。
- ⇒学問芸術は、不平等な社会の産物である。

- ・学問より徳の重視
- ・奢侈と不平等への嫌悪
- ・原始(自然)状態の賛美 など

ルソーの思想の原点

『エミール』にも通ずる

※原始には帰れないので、「かつての理想状況」へ近づけるような方法を考える。

## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### 2 主著『 』(1762)における教育思想



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### 2 主著『エミール』(1762)における教育思想



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### 2 主著『エミール』(1762)の概要

- ・小説のかたちをとったルソーの教育論である。
- ・主人公エミールの誕生と成長、そしてソフィーとの結婚までの成長過程に応じた教育論が展開される。

- ・構成:

第1編:幼年時代、第2～3編:少年時代

第4編:青年時代、第5編:女子教育



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### 2 主著『エミール』(1762)の概要

→キーワード「子どもの 者」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### 2 主著『エミール』(1762)の概要

→キーワード 「子どもの発見者」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### 2 主著『エミール』(1762)の概要

→キーワード 「**子どもの発見者**」

レジュメ 「序」冒頭部

要点は？



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想



### 2 主著『エミール』(1762)の概要

→キーワード 「**子どもの発見者**」

レジュメ 「序」冒頭部

- ・人(おとな)は、子どものことを知らない。
- ・人(おとな)は、子どもが、おとなとは違うこと(子どもが何を学べるか、おとなとは違う子どもという存在そのもの)を理解しない。

# 当たり前？



## 2 主著『エミール』(1762)の概要

→キーワード「**子どもの発見者**」

レジュメ 3頁註1

- ・人間には、それぞれの段階の成長がある。
- ・当然、子ども時代にも、子ども自体の成長があり、到達点がある。



# 当たり前？



## 2 主著『エミール』(1762)の概要

### ☆特に重要なポイント

- ・「子ども時代には、おとなとは違う、子ども個有の発達の法則に即した、子ども時代特有の成熟がある」
- ・「それを大事にして一步一步着実に積み重ねていくことが重要である」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソー.....「子どもの発見者」



ルソーの子ども観.....「新しい子ども観」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### 中世ヨーロッパの子ども観

- 中世には「子ども」という概念が存在しなかった。
- 7歳くらいで幼児期を脱する。  
→ 「大人の仲間入り」と見なされた。  
(「小さなおとな」として扱われた)

子どもを保護し、その成長発達を援助するという意識に乏しい。

.....エラスムスらが批判

## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

・中世には「子ども」という概念そのもの、「子どもを保護する、成長を支援する」という思想に乏しかった。

ルソー『エミール』

・「子ども時代には、おとなとは違う、子ども個有の発達の法則に即した、子ども時代特有の成熟がある」

・「それを大事にして一步一步着実に支援する」

## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の概要 (レジュメなし)

「子どもには子ども特有の考え方、感じ方がある。それを尊重しなければならない。」

「子どもに早いうちから「理屈」を教えるはいけない。それは子どもたちを欺瞞的にする。褒美をせしめるためや罰を逃れるため、ごまかし嘘をつくようになるのだ。」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の概要 (レジュメなし)

道徳は上から押し付けられて身につくものではなく、子ども本来の感じ方から生じる。

「子どものわがままや乱暴に対して、  
あなたがあなたの怒りや不快を示す。  
子どもは自己を改変させていく。  
道徳はこうして生じるのであって、  
約束や義務という考え方からではない」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の概要 (レジュメなし)

道徳は上から押し付けられて身につくものではなく、子ども本来の感じ方から生じる。

理屈でよいことと悪いことを教え込むのではなく、それを人間関係を通して、心情から理解させていく。

→ルソーにおける道徳教育の方法



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の冒頭

・レジュメ参照

「万物をつくる者の手を離れるとき  
すべてはよいものであるが、人間の手に移ると  
すべてが悪くなる」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の冒頭

・レジュメ参照

「万物をつくる者の手を離れるとき  
すべてはよいものであるが、人間の手に移ると  
すべてが悪くなる」

=ルソー

=『エミール』



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の冒頭

・レジュメ参照（意訳）

「造物主である神の手を離れるとき  
すべてはよいものである。

人間の手に移るとすべてのものは悪くなる」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の冒頭

・レジュメ参照 (さらに意訳)

「自然な状態にあるときすべてはよいものである。  
人間の手に移るとすべてのものは悪くなる」

・原始(自然)状態の賛美



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの主著『エミール』の冒頭

・レジュメ参照 (意訳)

「自然な状態にあるときすべてはよいものである。  
人間の手に移るとすべてのものは悪くなる」

→子どもは、産まれたその瞬間は良い存在である。  
産まれた後に、人間の手によって教育されることで、  
どんどん悪い存在となっていく。

→(4) “合自然の教育”



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (4) “合自然の教育”

- ・自然状態が最善・最良である。
- ・生まれた直後の子どもは、最善・最良である。
- ・人為的な子育てが子どもの自然な発達を損なう。

・子どもの自然な状態を損なわない教育＝  
“合自然の教育”

＝子どもの自然な発達を支援する教育  
が重要である。



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (4) “合自然の教育”

- ・ 自然状態が最善・最良である。
- ・ 生まれた直後の子どもは、最善・最良である。
- ・ 人為的な子育てが子どもの自然な発達を損なう。

・ 子どもの自然な状態を損なわない教育 =  
“合自然の教育”

= 子どもの自然な発達を支援する教育  
が重要である。



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (4) “合自然の教育”

- ・ 自然状態が最善・最良である。
- ・ 生まれた直後の子どもは、最善・最良である。
- ・ 人為的な子育てが子どもの自然な発達を損なう。

レジュメ 「乳母保育の批判」

【余談】 マリーアントワネットの子育て



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (5) 感覚および経験の重視

- 最初の(自然な)理性は、**感覚**である。
- **感覚**が、知性の土台になっている。
- 認識する力の基礎は、**経験**にある。
- **経験**は、五感(**感覚**器官)を通じた認識である。
- **感覚**を通じてのみ、人間は知的なものに到達する。



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

※感覚・経験の重要性

(例)ねこ



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

※感覚・経験の重要性

(例)ねこ



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

※感覚・経験の重要性

(例)いぬ



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

※感覚・経験の重要性

(例)いぬ



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

※感覚・経験の重要性

(例)うさぎ



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

※感覚・経験の重要性

(例)うさぎ



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (5) 感覚および経験の重視

- 最初の(自然な)理性は、**感覚**である。
- **感覚**が、知性の土台になっている。
- 認識する力の基礎は、**経験**にある。
- **経験**は、五感(**感覚**器官)を通じた認識である。
- **感覚**を通じてのみ、人間は知的なものに到達する。



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (5) 感覚および経験の重視 (意識)

・ **感覚**を通じて**経験**することによってのみ、人間は自然な状態を損なわずに成長し得る。

- ・ 書物による教育、言葉による教育の批判
- ・ 子どもが経験する、事実の重視
- ・ 実物による、感覚を通じた経験の重視

「実物教授」

「感覚教授」

「直観教授」

「経験主義」



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

(6) 「消極教育」

レジュメ 4頁冒頭 **重要!**

- ・ルソーの教育思想、その後の影響のまとめ



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (6) 「消極教育」

- ・端的に、「消極的に子どもと接する教育」

「初期の教育は...純粹に消極的でなければならない」

- ・子どもの「自然状態」「自然な発達」を最も尊重

「長い間自然のなすがままにしておくがいい」

#### 【実習における指導例】

「何でもやってあげないで！」

「できるかぎり自分でやらせてあげて！」

## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### (6) 「消極教育」

レジュメ 4頁冒頭 **重要!**

- ・ルソーの教育思想、その後の影響のまとめ
  - ・ペスタロッチ.....
  - ・フレーベル.....
  - ・モンテッソーリ.....
  - ・デューイ.....



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

### ルソーの「三つの教育」

**自然**の教育：人間の能力と器官の内なる発展。  
人間の自由にはならない。

**人間**の教育：周囲のおとななどによる教育。  
一般的な意味での「教育」。人間の自由になる。

**事物**の教育：子どもが経験から学ぶこと。  
ある点では人間の自由になる。



## Ⅱ ルソー(1712-1778)の教育思想

ルソーの「三つの教育」(意訳)

柱になるのは？

**自然**の教育：ヒトの自然な成長発達。

**人間**の教育：周囲の人間による教育。

**事物**の教育：環境から経験する学び。



# 本テーマの要点

- 1 **コメニウス**は、普遍的な教育制度を構想し、それに係る理論を集成した。（『**大教授学**』）  
世界最初の図入り教科書『**世界図絵**』を作成した。
- 2 **ルソー**らが、「子ども」を「発見」し、近代的な教育思想の基礎を築いた。（『**エミール**』）  
ルソーの思想は、ペスタロッチやフレーベルに継承され、幼児教育の思想・方法が発展した。

# 本テーマの要点

- 1 コメニウスは、普遍的な教育制度を構想し、それに係る理論を集成した。（『大教授学』）  
世界最初の図入り教科書『世界図絵』を作成した。

- ・生涯学習思想
- ・発達段階に応じた教育
- ・家庭教育の重視... 母親学校（「母親の膝の上」）
- ・教育の機会均等... 「あらゆる人に～」

# 本テーマの要点

2 ルソーらが、「子ども」を「発見」し、近代的な教育思想の基礎を築いた。（『エミール』）

ルソーの思想は、ペスタロッチやフレーベルに継承され、幼児教育の思想・方法が発展した。

- ・子どもの「自然な状態」「**自然な発達**」の最重視
- ・「**消極教育**」
- ・子どもの感覚・経験の重視
- ・子ども特有の発達段階に応じた成長の支援